

点々として見出される。一つの地域に同一雑種の個体がこのように数多く見出される所を私は他に知らない。地元水上町や群馬県がこのヤナギをユビソヤナギと共に大切に保護されることを切に希望する。

○エキサイゼリの染色体数 (川谷豊彦・佐藤克二) Toyohiko KAWATANI & Katsuji SATO: Chromosome number of *Apodicarpum ikenoi* Makino

エキサイゼリ *Apodicarpum ikenoi* はセリ科に属し、河川流域の低湿地、原野、竹林<sup>1)</sup>などに生ずるはなはだ稀産の多年生草本植物である、その産地は武蔵および尾張とされている。前者としては荒川流域の志木<sup>2)</sup>、田島が原<sup>2)</sup>、戸田原 (Type locality)、志村<sup>2)</sup>、および庄内古川流域<sup>3)</sup>、江戸川河原<sup>3)</sup>などがある。近年、荒川流域の産地では工場排水などによる環境汚染がはなはだしく、自生をみることはほとんど不可能とな

った。著者の一人川谷は 1965 年 5 月、長須房次郎とともに杉戸町東南端大塚の庄内古川右岸の原野とその対岸 (庄和町榎) の低湿地、の 2 か所に自生の群落を確認したが、現在も健在ではあるが自生ははなはだ少ない。最近加藤<sup>4)</sup>は草加市での自生を報告した。他の産地尾張では近年自生をみることはないといわれている。このようなわけで、エキサイゼリはまさに滅びゆく植物であるといえよう。

著者らはエキサイゼリの自生のものについて 1965 年 5 月、およびそのときから栽培し続けたものについて 1975 年 1 月、その染色体数を観察し、 $2n=22$  と決定した (Fig. 1)。ここに報告し記録にとどめたい。染色体数の観察は Tjio & Levan (1950) の方法による根端おしつぶし法によった。

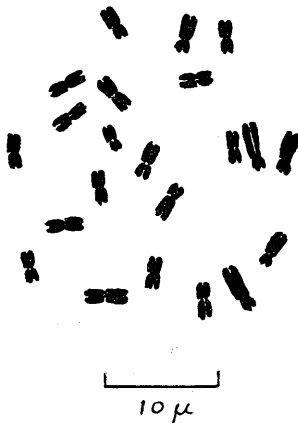


Fig. 1. The somatic chromosomes at metaphase of *Apodicarpum ikenoi* Makino ( $2n=22$ ).

文 献

- 1) 檜山庫三 (1965): 武蔵野の植物, p. 101. 東京, 井上書店。
  - 2) 奥山春季 (1953): 植物採集ハンドブック, p. 182. 東京, 和田書店; 同 (1974): 日本植物ハンドブック, p. 49. 東京, 八坂書房。
  - 3) 埼玉県教育委員会 (1962): 埼玉県植物誌, p. 92。
  - 4) 加藤儋重 (1975): 草加市周辺の植物リスト (2). 野草 42 (No. 347), 61-63.
- (東京農業大学 進化生物学研究所)